

Ⅲ. 財務の概要

1. 令和3年度決算の概要

令和3年度は、第3期学園・大学中期計画（以下、中期計画: 令和3～令和10年度）の初年度として、新設大学院対応（看護学研究科及びスポーツ科学研究科）、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業の推進、美浜キャンパス12号館空調更新工事や高校校舎新棟建設、専門学校設備改修等、各キャンパス・学校における大規模修繕事業、リカレント教育事業拡大などの諸課題に取り組んだ。

また、上記に加えて新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生支援策や感染防止にかかる各キャンパス・校内環境整備、対面授業に替わるオンライン・オンデマンド授業実施等、学生の学びを止めないための諸施策を実施した。

1) 事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分して表示し、この3区分を集計した事業活動収入および事業活動支出の内容を明らかにしたものである。

令和3年度は事業活動収入計119億円に対し、事業活動支出計は114億円、収入と支出のバランスを示す同収支差額比率は3.9%となった。

(1) 収入について

学生生徒納付金収入は、大学通学課程については入学学生数減により昨年度比1千万円減となったが、大学通信課程学生数の増加により昨年度比1億円増の92億5千万円となっている。

経常費等補助金収入は15億7千万円であり、このうち基盤的資金である私立大学等経常費補助金（改革総合支援事業含む）は9億円、国の修学支援新制度による授業料等減免費交付金は2億6千万円（昨年度比5千万円増）であった。その他、研究関連補助金（厚生労働省・林野庁）や新型コロナウイルス感染症拡大防止関連補助金についても積極的に獲得した。

また、リカレント教育事業の推進等により付随事業収入は9千万円増加し、その他の収入を加えた教育活動収入計は116億5千万円となり、教育活動外収入1億9千万円とあわせて経常収入は118億4千万円となり、昨年度より3億7千万円の収入増となった。

(2) 支出について

事業活動支出は114億円、内訳として人件費56億7千万円、教育研究経費48億3千万円、管理経費9億円となっている。

人件費は、新設研究科対応等に伴う教員人件費増ならびに退職給与引当金繰入額の増加、附属クリニックさくらの人件費などにより2億6千万円増加している。教育研究経費については、新型コロナウイルス感染症拡大によるオンライン授業への対応、国の修学支援にかかる授業料減免奨学金や社会福祉士新カリキュラム対応経費

などにより増加したが、学生総合支援策の縮小により昨年度比 7 千万円の減額となっている。

2) 資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の教育研究活動等に対応するすべての資金収入と支出の内容を明らかにするものである。

令和 3 年度の資金収入・支出規模は 190 億円となり、対前年度比で約 8 億 6 千万円の増額となっている。また、翌年度繰越支払資金は 68 億 6 千万円となり、前年度比 9 千 4 百万円の減額となった。

3) 貸借対照表について

令和 3 年度末の資産総額は 369 億円であり、対前年度比 2 億 8 千万円の増額となっている。その内訳は、固定資産 292 億円（そのうち有形固定資産 223 億円、特定資産 63 億円、その他の固定資産 5 億 8 千万円）、流動資産 77 億円である。有形固定資産は、付属高校新棟建設、美浜キャンパス 12 号館空調更新等による増加、既存施設・設備の除却や減価償却により、2 億 4 千万円の減額となった。また、その他の固定資産には、リカレント教育事業推進の一環として開発したコンテンツ教材（e-ラーニング）を「その他の無形固定資産」として新たに計上している。

一方、負債総額は 41 億 8 千万円であり、内訳は固定負債 16 億 5 千万円、流動負債 25 億 3 千万円となっている（有利子負債はない）。

純資産の部では、1 号基本金が付属高校新棟建築等に伴い 5 億 9 千万円増加し、翌年度繰越収支差額を含めて 327 億円となり、資産総額は昨年度より 2 億 8 千万円増加した。

4) 今後の課題

令和 3 年度については、学園全体での新型コロナウイルス禍（以下、コロナ禍）下における学びの継続のための環境整備を始めとする諸事業を実施しつつ、中期計画の財政目標（教育活動収入 120 億円規模、事業活動収支差額比率 5%以上、減価償却額を除き年間 5~6 億円程度の資金蓄積、教育活動収入における付随事業収入比率 10%程度）達成に向けた財政計画策定に着手した。

引き続き、本学を取り巻く経営環境（コロナ禍、経済変動等）の動向に留意し、中期計画の推進基盤となる「学園基本財政フレーム」実現に向けた具体的な財政計画の適切なローリングを適宜進める。合わせて厳しい学生・生徒募集状況（2 期連続の大学通学課程定員割れ）の確実な回復を見通しつつ、年次予算の執行管理に万全を期す。

以 上